

2022.10.09. 第一第二礼拝前 奇跡の証 Judy 鈴木さん癌からの生還

(第一礼拝) では今、ジュディ鈴木さんに上がって貰って、少し分かち合ってくださいませうね。一拍手喝采ー

これから聞くのは、奇跡と呼ぶもの、あらゆる意味での奇跡です。ジュディに登場してもらい、神が何をなさったかを話してもらいます。ではジュディさん、あなたの時間ですよ。

「私のマスカラがにじまないようにしてね。」「分かりました。」実は、そうなることが分かっていたので、つけなかったんですよ。ー(笑)ー

ジュディ：皆さん、おはようございます。皆さん全員に会えて大変嬉しいです。この素晴らしい教会から7ヶ月間離れ、私の人生が保留にされるとは思ってもみませんでした。しかし、神はこのすべてを通してご計画があらわれました。心からそう思います。今朝は、そんな私の旅について、皆さんに少しお話ししたいと思います。何が起こったか、また苦しみを通してさえもどんな喜びが生じたかを。

第二礼拝では、祈りの力と答えられない祈りについてを分かち合いたいと思います。ですから、皆さんは私の教会の家族ですから、私の秘密のひとつ、私が最も恐れていることを分かち合いたいと思います。私が最も恐れる2つ、1つが苦しみです。2つ目は、人前で話すこと。それって、今している事です。でもわかりますか？ 神は、私たちのすべての恐れよりずっと偉大なご存在です。アーメン？ ええ、アーメン。その通りです。神様、ありがとうございます。一拍手喝采ー

1年ほど前の事です。事務所に戻るため廊下を歩いていると、突然、神の御声が聞こえてきたんです。神ははっきり仰いました。「あなたはこれから苦難の時期を迎えます。」私は、それをよく受け取れず、私を震え上がらせました。なので拒否し、頭から取り除き、私の聞き違いだと思うようにしました。そして、そのわずか数ヵ月後、突然、足に、信じられないような痛みを感じ始め、何がどうなっているのかわかりませんでした。そして、2ヵ月半ほどかかって、ようやく医師が原因を突き止めました。救急救命室にいて、MRIを撮ったところ、骨肉腫であることがわかりました。私のような年寄りが、あのような癌になるのは稀です。基本的に腫瘍です。大腿骨(太ももの骨)の腫瘍でした。それで、見つかった時は、既に20cmでした。それで、すぐに手術をし、切除しなければならぬと言われました。しかし医師側は、化学療法で腫瘍を縮小させることができると考え、化学療法を勧められました。そうすると、手術はそれほど危険ではなくなるからです。それで、1回目の化学療法を受けたんです。恐ろしいものでした。大変具合が悪くなり、その数週間後、足がむくみ始めたと感じた時、何か本当に、間違っているような気がしたんです。それで医師に電話をし、言いました。ただ、心の底から何かおかしいと思ったんです。それで、もう一度MRIを撮ると言われました。見つかったのが、腫瘍が縮小せず、20センチだった腫瘍が、短期間で30センチになっていました。すぐに手術をしないと、足を全部失うと言われました。それで、カリフォルニアに飛び、スタンフォード大学病院で手術を受けることになりました。そこに到着した時、カリフォルニアに行くのは3週間くらいだと思ってたんです。ですから、手荷物程度を持って行きました。まさか3ヶ月近くもいて、3回入院し、1ヶ月間リハビリホームにいる事になるとは思ってもみませんでした。でも、カリフォルニアに到着した時、手荷物だけだったので、持ち運びに便利なので、薄くて軽量の娘の聖書を借りて持って来ていました。覚えているのは、翌朝起きて、娘のその聖書を開いた時、リボンマーカーがあって、リボンマーカーの箇所を開けました。どの章と節に行き着いたと思いますか？ 神だけが御出来になられます。「ヤコブ書1章2節3節」でした。

ーヤコブ 1:2ー

私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

ーヤコブ 1:3ー

あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。

ーヤコブ 1:4ー

その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

そうなんです。私はすっかり忘れていたので、主は私に思い出させてくださいました。主は仰いました。

「あなたがこれから苦難の時期に入るとわたしが言ったのを覚えていますか？」主がそのことを御言葉で確認されました。その瞬間、私は神に祈り、泣き叫び、尋ねました。

「主よ、どうか、苦しみの中であなたが私に持っておられる祝福へと私の心の目を開いてください。何一つ見逃したくありません。」それで、私が経験したあの困難な旅の中で、私はただ言いたいのはこの教会は、本当に互いに愛し合うことができる教会だということです。皆さんは、実に素晴らしいです。皆さんからいただく祝福は、私の想像をはるかに超えるものだからです。それが私の苦しみを支えてくれました。多くの人が私に手を差し伸べてくれるのは、主が仰って下さっているからだと分かります。祈りだけでなく第二礼拝でお話したいことですが、私は、皆さんが私にして下さったことだけ焦点を当てたいです。本当に心から感謝しています。私を励ますショートメールでの祈り、賛美音楽と聖句のリンクを教えて下さった事、私の様子を確認して下さいした事、花束を送って下さった事、予約場所まで送って下さった事、手作りの料理を届けて下さった事。私は圧倒されました。今、苦しみの中にいる人たちに、主が祝福へと目を開かせてくださるようお願いするをお勧めしたいと思います。なぜなら、それは小さな、小さな包みに入っている最高のものだからです。それは純粋な喜びでした。この礼拝が終わったら、皆さん一人一人立ち上がり、ここから、この聖域から歩き出しますが、歩くということがどういうことなのか考えもしないでしょう。歩く仕組みを。歩けなくなるまでは考えません。私の苦しみの中で神が与えて下さったのは、そうした小さな恵みだったのです。術後、足を上げることすらできなかったのが、立って2、3歩歩けるようになった日のことは決して忘れられません。圧倒的な喜びを感じました。ですから、皆さんからの励ましや祈りが、小さな包みになっているのです。私は、皆さんのお陰で、とてもとても圧倒され、祝福されています。なぜなら、皆さん全員の愛がなければ、私はここに立っていなかったでしょう。皆さんはキリストの大使です。皆さんは愛し方をご存知です。キリストにおける兄弟姉妹の皆さん、なぜなら、それが私たちに必要なことだから。この暗い時代に、私たちは互いに励まし合わなければなりません。そこをしっかりと保たないといけません。皆さんがして下さった全てを、心から感謝します。皆さんの私への心からの愛がなかったなら、私はここにいなかったし、皆さんの前で話せなかったでしょう。本当にありがとうございます。皆さん、誰かに手を差し伸べてほしいです。それを考えてください。祈りのリストにある誰かに。または、あなたの知り合いで、困難な状況にある人に。私たちは生活の忙しさに追われますが、彼らに手を差し伸べ、たとえそれがメールや電話、お見舞いカードであったとしてもです。一度に全部じゃなかったんです。数カ月間に渡って、様々な人から貰いました。信じられないのは、このようなことが起こると、人々が一つになるのは不思議です。なぜなら、私が圧倒されたのは、キリストにある兄弟姉妹だけでなく、信者でない人たちでした。信じられないのは、彼らが信者でないのは分かっていましたが、私のために祈っていると伝えてくれたことです。しかし神が、彼らの心を動かし、彼らを

少しずつイエスに近づけ、私の家族をより親密にして下さいました。小さな祝福がたくさん見えて、私がこの旅で経験したことすべてが見えたのです。というのも、私たちは家族としてより親密になり、本当に仲の良い家族ですが、より親密になったのです。それは一生忘れることはないでしょう。もう二度とこんな経験はしたくありませんが、私は旅の途中で素晴らしい人々に出会い、心に響きました皆さん全員に感謝します。皆さん全員を愛しています。神が皆さんを祝福下さいますように。アーメン。一拍手喝采

## 第二礼拝

皆さん、おはようございます。ありがとうございます。皆さん全員に会えて大変嬉しいです。本当に、本当に、皆さんに会えず寂しかったのです。ここに来るまで、その大きさに気づきませんでした。この一年私が経験した暗い旅路にたくさんの愛と祝福をありがとうございました。今朝の第一礼拝で、私の苦しみの中での喜びについて、また、癌の診断について話しました。第一礼拝におれなかった人の為に、私は、大腿骨の腫瘍、骨肉腫と診断されました。非常に侵襲性が高い高悪性の腫瘍でした。そのため、太ももの骨の70%以上を切除しなければなりません。また膝に腫瘍が広がっていて、膝も切除しなければなりません。ですから、私は再び歩くことを学んでいます。神の恵みで、いつの日か補助器具なしでここへ歩いて来られるようになると思います。医者には無理だと言われましたが。しかしこの場を借りて、皆さんと祈りの力について分かち合いたと思います。皆さん全員の祈りに、感謝してもしきれません。私の旅を通して確かに感じられたからです。カリフォルニアへ行って、スタンフォード大学で手術を受けました。この種の手術の件数が多いからです。ここハワイでは、あまり一般的ではありません。その中で、神がどのようなことをされたのか、いくつか話したいと思います。探して、私の手術をしてくれる専門医を見つけました。緊急手術をしないと、足を失うことになると言われました。専門医がいて、「承諾して、手術します。」と言ってくれました。それが月曜日だったのを覚えています。彼らは言いました。「すぐに手術をしないと、足を失う。」それで、予定管理者に言われました。「本当にすみません。医師は承諾しましたが、彼は非常に忙しく、数週間会えません。手術の日程を決める前に、検査する必要があり、スタンフォードも、今後2週間ほどは予約で埋まっています。」

私はそれを聞いたとき、大変ショックで、主に泣き叫びました。そう、私はここで正しい方法を取っていると思っていました。

「どうしたらいいんだろう？ どこに行けばいいのかわからない。ハワイにはこの手の手術に長けている医師はいないし、シティー・オブ・ホープや、シアトル・キャンサー・ケア・アライアンスなど、他の癌センターを見て、一からやり直さなければならない。」

でも私には、そんな時間はありませんでした。時間との戦いでした。ですから主に祈りました。そして、火曜の朝一番に、予定管理者から電話がありました。彼女は言いました。

「どうしてなのかわからないけど、金曜に会える別の専門医が見つかりました。木曜日までにカリフォルニアに来れるなら、その専門医に金曜日に会えます。」

それが火曜日の事でした。信じられませんでした。神に違いないと分かりました。神は私に仰っているのです。「ここがあなたのいるべき場所だ。」そのため非常に感謝しました。というのも、私が委任した、この別の専門医のことだけではなく、彼は部長であっただけではなく、彼は十分な経験者で、このような根

治的切除を行うのに必要な経験をたくさん積んでいました。彼に会ったとき、この人こそ神が選んだ手術のできる人だと、圧倒的な平安を感じました。彼はとても自信を与えてくれました。彼はとても細部まで行き届いていました。彼はとても有能で、安心して任せられると思えました。ハワイの医師からは、遅くとも金曜日までには手術を受けねばならないと言われていました。異常に攻撃性の高い腫瘍だったからです。でも病院側は言いました。

「予約がいっぱいで、手術は出来ない。金曜日に専門医に診てもらっても、あと1、2週間はかかりそうだ。」と。でも再び、神に祈った後、電話がかかってきました。月曜日に空気がでたとのことでした。目が覚めてまだ足があるのか、それとも棒と義足に置き換わるのか、何が起こるか分からなかったのですが、JD牧師に特別な感謝をしたいと思えます。私のために、神が私の足を守ってくださるよう熱心に祈りを導いてくださったからです。皆さん分かると思いますが、私に2本の足があるの明らかです。ええ、そうなんです。イエス様、ありがとうございます。なぜなら、起こったことはすべて、主の慈悲の御手と、皆さんひとりひとりの祈りの力なしには起こり得なかったからです。心から感謝します。ティッシュを忘れました。(涙)とにかく、その全てを経験している時、もう一つ覚えている事を、分かち合いたいのですが、注射を打たれました。看護師と医師は、その副作用のひとつに激しい骨痛があるのを伝え忘れていたのです。家にも吐き気が止まらず常に嘔吐と吐き気の繰り返しで、とても気分が悪かったのを覚えています。突然、差し迫る死を感じました。冷や汗が出るほどでした。自分の体が本当に、何かおかしいと思ったんです。そこで早速、祈りの戦士にメールをしました。彼にどうか助けてほしい、私の為に祈ってほしいと頼みました。すると突然、短時間のうちに、骨が砕けるような痛みがありました。背中の骨ごと押しつぶされるような感じでした。泣いたり、叫ぶことすら出来ず、ただただ痛みで押しつぶされそうでした。実際、手のひらの骨まで、押しつぶされそうな痛みが伝わってきました。私は主に泣き叫びました。2人の祈りの戦士が私のために祈ってくれていることを確信しました。冗談抜きで短時間で、限度を超えた耐え難い痛みが、一気になくなりました。あまりの突然の出来事に、私は悪夢から覚めたのか、それともただの想像だったのか不思議に思いました。神の御手が働き、その祈りに応えて下さるのを感じたのだと分かりました。誰もがそうだと思うのです。神がどのように祈りに答えてくださるのか、驚くべきご方法に気づいていないから、それに圧倒されるばかりでした。コーネリア(コリー)・テングムだったと思いますが、「どんなに深い穴でも、神の愛はもっと大きい。」私たちは、覚えておかねばなりません。たとえ自分がその穴にいようと、闇の中にいようと、神が私たちを愛して下さっている事を。神の愛はとても深く、その最も深い穴よりももっと深いのです。カリフォルニアにいた時、たくさんのがんが起り、祈りがどんどん答えられました。ハワイに戻って来た時、あと何回か化学療法が必要だと思い、そして思ったのです。

「OK。最悪の事態は脱したぞ。次の数ヶ月化学療法をして、元気になる。」

病院側は言いました。「化学療法を受けたくないと言ったでしょ。腫瘍を切除して、なぜ化学療法が必要だ？ 手術を受けた人の生存率は、腫瘍を全部摘出して25%です。この腫瘍は微小転移を起こしやすいのです。化学療法を受けるなら、生存率は80%に上がります。」それで思いました。

「OK。受けよう。カリフォルニアで経験したことより悪いことはないだろう。」しかしこの化学療法のカクテルがどれほど有害なのか考えもしませんでした。その4ヶ月の間に6回入院し、体に起こるとは想像もつかないような、さまざまな苦しみを体験しました。神が私から遠く離れておられるように感じ、理解できませんでした。カリフォルニアにいた時には主は祈りに答えて下さったのに。でも、ここに来て

化学療法を受けることになって、祈りは聞き入れられないように思え、信じられないような苦しみを経験しました。理解できませんでした。

「神様、なぜ私の祈りを聞いて下さらず、答えて下さらないのですか？ これ以上は無理です。」すると神は私に思い出させてくださいました。第一礼拝で話しましたが、癌と診断される前に、神は私に仰いました。「あなたは苦難の時期を迎えます。」神は私に仰ったことを、思い出させて下さいました。

「わたしがあなたに、あなたが苦しみ of 時期を迎えると語ったことを覚えていますか？ わたしがあなたの祈り全てに答えたら、あなたは苦しまないでしょう。」

その苦しみの中で、砕かれ、謙虚になり、主は私を通して働かれ、私を練り磨き、形造り、私を新しくされ、私を造り変えて下さいました。すべてが順調に進んでいたら、ありえないことですよ。私の人生は最高でした。素晴らしい家族がいて、情熱を持って取り組んだ大好きな仕事を成功させ、しかし私は、ただただ忙しく生きることにとらわれていました。神は仰いました。

「あなたを変える必要があります。」というのも、私の祈りの 1 つ、JD 牧師が「何を祈るか気をつけて。」と仰ったのを覚えています。以前、忍耐強くなるようにと不可能を可能にする信仰を祈った時のことを思い出しました。私は 7 年間、とても辛い心の試練を経験しました。そして神と交わしたあの時の最後の祈りは、

「もっとあなたを知りたい。自分ではなく。」そして今、私は想像を絶する肉体的苦痛を経験しました。主の苦しみに与り、砕かれるのを知ることは、なんと光栄なことでしょう。神は砕かれた器に惹かれます。神は私たちの痛みや苦しみを決して無駄にされません。それを用いられます。何一つ無駄なものはありません。それを正しく用いられます。あなたは違った人になる。信じられないようなことが起きているんです。そんなある日、私は落胆していました。長い間、神の御声を聞いていなかったのです。すると突然、ハッキリとこう仰ったのが聞こえました。

「あなたは、キリスト・イエスにおいて勝利します。」心の中に圧倒的な平安が満ちました。そして、主が私に勝利を与えてくださることを知りました。しかし、私は痛みや苦しみを体験する必要があります。ゆっくりと、化学療法の体へのひどい毒性から回復しようとしています。いろいろ見えてきました。少しずつですが、確実に突破口が見えてきました。神の慈悲の御手であり、恵みが私の上にあることを知っています。それが、信じられないような苦しみを味わっている人たちを励ますのです。神は決してあなたを置き去りになさいません。遠く離れているように思っても、主はあなたを背負っておられます。思い出すのは、「第二コリント人への手紙 4 章」16 節か 17 節だったと思います。

#### —II コリント 4:16—

**ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。**

そうですね？ アーメン。全ての栄光はイエスに。主がなされることに。お時間いただきありがとうございます。私のためにして下さいましたすべてのことに、皆さんの祈りと愛に、神の祝福が皆さん全員にありますように。再度、心から感謝します。ありがとうございます。一拍手喝采—

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7